

情報モラル教育 ～スマホで学ぶ情報社会～

京都市立藤城ふじしろ小学校 校長

辻

喜則よしのり



はじめに

本校は、京都市の東南に位置する伏見桃山城（旧伏見城）の北隣りにある児童数441名の中規模校の小学校です。

平成15年度に京都市立小中学校（約260校）の校内LAN構築のモデル校としての研究指定を受け、情報教育に取り組み、13年間続けています。その間、学校運営協議会（地域・保護者）とも連携する中で、その実践が全国規模で評価され、数々の栄えある賞を受賞しています。

また、平成26年度には、全日本教育工学会研究協議会京都大会の公開授業校として、全年、情報モラルと情報教育の授業を発表しました。

情報モラルについて

研究指定を受けた当時は、まだ家庭にコンピュータがあまり普及していなく、保護者の多くの方が、インターネットの便利さや危険性の知識を持っておられない時代でした。だからこそ、学校教育の中で、これからの情報化社会を生き抜いていく子どもたちに情報モラルをしっかりと指導をしていくことが大切

だと考え、（現）目白大学教授の原克彦先生と（現）奈良教育大学教授の伊藤剛和先生のご指導の下、取り組み始めました。

平成15年度から独自のカリキュラム作成に取り組み、平成19年度の文部科学省「情報モラル指導実践キックオフガイド」や「京都市情報モラルカリキュラム表」を参考にしながら、本校の実態に合わせてカリキュラムを見直しながら行ってきました。指導システムを「情報社会の倫理に関すること」「法の理解と遵守に関すること」「安全への知恵に関すること」の三つに分け、各学年の指導内容を整理していきました。

デジタル教材を活用した情報モラル授業の実践（指導者・堀川絃子教諭）

内閣府の平成26年の実態調査によると児童生徒のスマートフォン等でのインターネット利用率が8割近くになっていることが報告されています。一方、ネットトラブルやネット依存、ネット詐欺の被害などの課題も多くなり、小学生もSNS等によるトラブルに巻き込まれることも少なくありません。

本校が実施したアンケートにもSNSを利

用したことがある6年生が半数以上あり、LINE関連では、「知らない人から連絡が来た」「友達の悪口が書き込まれた時に、自分の考えと違っても仲間外れにされたくない気持ちから同調してしまいそうになった」と、自由記述欄に書かれていました。このことから、このような状況に置かれた時に、どのように行動するのかを考えさせる必要があると思います、「教え諭すだけの情報モラル教育でなく、自分たちで話し合い、どう使っていくかを考えることが大切である」と考え、デジタル教材をもとにロールプレイングを取り入れた授業を実践しました。

「ねらい」（表中、□部分を参照）

- ・ コミュニティサイト内で友達が誹謗中傷する内容を書き込んだと想定し、その発言に対して自分ならどのように対応するか、よりよく解決する方法について考える。
- ・ 相手の顔が見えないコミュニティサイトでのコミュニケーションでは、誤解されたり、相手を傷つけたりする場合があることにも気づかせる。

「授業の流れ」

- ① コミュニティサイトを知る。



表 情報モラル年間指導計画

学年	単元	学習のねらい	関連教科 資料
1年	友達と教え合い、楽しくコンピュータを使う	みんなが気持ちよくコンピュータを使うために、どんなことを大切にしたらよいか考える。	生活「コンピュータを使う」 道徳「みんなのりもの」
	自分や友達のことを知らない人に教えない	知らない人に名前や住所、電話番号など聞かれても教えないことを知る。	学活 安全指導
	ゲームなどの情報機器は使い方を考えてよりよく使う	テレビゲームなどのメディアが生活のリズムや健康に与える影響を考え、利用時間や約束を決めて使おうとする。	学活 保健指導
2年	友達の作品のよいところを見つけよう	作品に対する自分の思いを伝え合う活動を通して、それを大切にしていこうという心情を育てる。	図工 作品の鑑賞
	相手への影響を考えて行動しよう	悪口やウソの落書きが相手や周囲の人たちに与える影響を考える。	道徳「さるおの落書き」
3年	大切な情報を守ろう	自分に大切な情報は、友達に教えないことの大切さに気づく。	道徳「さるおのパスワード」
	肖像権について知ろう	写真を撮る時は相手の許可を取ることや他人の写真を使う時は本人の了承を得ることについて知る。	社会「商店のはたらき」 総合「藤城のステキを伝えよう」
	不適切な情報に出合った時の対応の仕方を考えよう	インターネット上には不適切な情報があることを知り、危険を回避することの大切さに気づく。	副読本 わたしたちと情報3・4年「情報の安全で正しい使い方」
4年	相手への影響を考えて発信しよう	校内電子掲示板などに書き込む時には、相手の気持ちを考えて情報を発信することの大切さに気づく。	副読本 わたしたちと情報3・4年「情報の安全で正しい使い方」
	ケータイを気持ちよく使う時のルールやマナーを考えよう	気持ちよく生活するために、携帯電話を使う時にも相手のことを考えたルールやマナーが必要なことにつながる。	道徳「人の気持ちを考える」
5年	著作権について知ろう	身近な例から著作物について考え、著作権の概念を知る。	国語「だれもがかわりあえるように」
	受け取った情報が正しいものかどうかを判断しよう	インターネット上の情報をうのみにせず、複数の情報から判断することの大切さに気づく。	総合「安心・安全 ふじしろキッズ」
6年	情報の保護や取り扱いに関する基本的なルールや法律の内容を知ろう	自他の個人情報やプライバシーを大切にすることやその適切な取り扱い方を知る。	情報化社会の新たな問題を考えるための教材（ネット被害）
	架空請求のようなネット上でのトラブルの回避策について考えよう	架空請求のトラブルが起こる原因や対処法について考え、よりよくインターネットを活用しようとする。	NHK for school「スマホリアルストーリー」（架空請求）
6年	情報化社会における適切な情報の扱い方について知る	情報化社会の利点や問題点を知り、情報の受け手、送り手として責任ある行動を行う必要に気づく。	社会「情報化した社会とわたしたちの生活」
	文字でのコミュニケーションについて考えよう	文字だけのやりとりは誤解が生じやすいことを理解し、チャットやメールを利用する時に気をつけることを考える。	総合「めざせ、みんなに優しい町 藤城」
	相手の立場や気持ちを考えて情報発信することの大切さに気づく	インターネット上でのやりとりは、誤解によるトラブルが生じやすいことを知り、相手の立場や気持ちを思いやることの大切さに気づく。	情報化社会の新たな問題を考えるための教材（適切なコミュニケーション）
	ネット依存症について知り、よりよいコンピュータ活用について考えよう	ネット依存の悪影響について知り、節度あるコンピュータの使い方や人間関係を築く大切さに気づく。	情報化社会の新たな問題を考えるための教材（ネット依存）

②悪口が書かれたログ画面をもとにどのよう
に切り返すか考え、交流する。
(ロールプレイング)
③動画教材を視聴する。
④問題のよりよい解決方法について話し合う。
「授業の様子」
『もし悪口が書き込まれたら、自分ならど
う切り返すか?』ということについてグルー

プで話し合いました。その中で、子どもたち
の考えが、①悪口を言ったことを注意する、
②話をそらす、③既読スルー（返信しない）
という考えに分かれました。仲のよい友達だ
からこそ、注意すべきなのか、それとも注意
せずに今まで通りの関係を保ちたいという考
えで揺れ動き、葛藤していました。一人一人が、
自分事として授業に臨む姿が見られました。

地域と共に歩む

学校運営協議会の教育情報化部会で、顧問
の原先生と伊藤先生に講師になって頂き、保
護者や地域の方・教職員が、「情報モラル」
や「ケータイ安全教室」等の研修会を年に数
回ずつ積み重ね、情報化社会の光と影につい
ての認識を深めていきました。また、PTA
による家庭教育講座では、企業からインス
トクターを招き、『スマホ』や『携帯電話』
の危険性について研修しました。
保護者や地域の方が多く来校される休日参
観には、全クラスが情報モラルの授業を行い、
情報教育への理解を得るよう努めています。

今後について

インターネットの環境がさらに充実し、携
帯電話等の普及が進み、小中学生一人一人が
タブレット端末を持参し、「いつでも」「どこ
でも」「なんでも」情報を手に入れて活用す
るようになっていきます。一方、便利さとは
裏腹に、子どもが非常に危険な状況になるこ
とも大人は認識しておかなければなりません。
子どもが高度情報通信社会の中で健全に生活
できるようにしていくには、学校における情
報教育だけでなく、保護者・地域の方、一人
一人が少しでも情報リテラシーを身につけて
いくことが必要でないかと考えています。
今後とも常に子どもの実態を把握しながら、
学校運営協議会と協働して情報教育を推進し
ていきたいと思っています。